

【開会 午後4時00分】

- 1 開 会
- 2 出席委員の報告
- 3 競輪事業部長挨拶

○扇谷部長 皆様、こんにちは。函館市競輪事業部長の扇谷でございます。函館市競輪運営協議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、委員の皆さまにおかれましては、何かとお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃より、市営函館競輪の運営にご理解とご協力をいただきまして、心より感謝を申し上げます。

さて、令和4年度の市営函館競輪は、前年に引き続きまして新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中での開催となり、第1回前節の開催において、開催関係者に新型コロナウイルスの陽性が判明し、一部日程を中止とするなどのアクシデントもございましたが、これまで同様、業界ガイドライン等の内容を踏まえ、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ運営を行うことで、その後は特に大きなトラブルもなく、昨年10月21日をもって、全日程を終了することができたところでございます。

5月にGⅢグレードの記念競輪をナイターで開催したほか、8月には令和2年度より2度目となるGⅢナイター「函館ミリオンナイトカップ」を開催し、3年ぶりとなる有名芸能人を招いてのステージショーを行うなど、開催を盛り上げることで、多くのお客様にご来場いただき競輪の魅力に触れていただくことができました。また、直接来場できない全国の競輪ファンの方々に対してもインターネット番組等を通じて函館競輪の魅力を発信することで目標を上回る売上を上げることができたところでございます。

年間売上につきましても、令和4年8月31日付で弾力条項を適用し、売上予算を当初予算の243億円から47億円増額し、290億円に変更

しており、全開催終了後の売上については約285億円と、令和3年度の約268億円を大幅に上回ったところでございます。

その結果、一般会計への繰出しを2億円と、これまでの7千万円から大幅に増額したほか、競輪場施設の計画的な改修を実施していくための「施設整備基金への積み立て」につきましても、約6億3千万円を積み立てることができ、現在の基金残高は約19億円となったところです。今後も一般会計への繰出し、基金の積み立てを継続してまいりたいと考えております。

令和5年度の市営函館競輪におきましては、5月8日より新型コロナウイルス感染症の位置づけがこれまでの2類相当から5類に移行したことにより、令和元年度以来4年ぶりに入場制限等のない中で5月にGⅢグレードの函館記念競輪を開催したほか、7月には2年ぶり5度目となる、GⅡグレードの特別競輪「サマーナイトフェスティバル」を開催し、地元企業とのコラボ商品の開発やWebで誰でも参加できる競輪を題材としたゲームの実施などの特色のある企画を実施したほか、開催中にはバンク内の光の装飾を強化して、バンク前にステージを設置しショーを行うなど、まさに「夏祭り」をテーマにしたイベントで開催を大いに盛り上げ、市民の皆様だけでなく、全国から多くのお客様に会場いただき競輪の魅力に触れていただくことができました。

このような特別競輪の開催は、地元や全国のファンの皆様に函館競輪の魅力をより一層発信する大きなチャンスとなることから北海道で唯一の競輪場を将来にわたって継続することができるよう、今後も、職員・関係者が一丸となって積極的な誘致に取り組んで参りたいと考えておりますので皆様の一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

本日の報告事項は、令和4年度自転車競走特別会計決算（案）および令和5年度の市営函館競輪売上状況、ならびに令和5年度下期の函館競輪開催日程でございます。本日は限られた時間ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 報告事項

① 令和4年度自転車競走事業特別会計決算（案）について

（資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき小林事業課長から説明）

○今井会長 質問等ないか

○鶴野委員 一般会計繰出金というのは、自転車競走事業特別会計から函館市の一般会計に繰出したお金ということでよろしいか。

○小林課長 そのとおりである。

○鶴野委員 了解した。

② 令和5年度市営函館競輪売上状況について

（資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき小林事業課長から説明）

○今井会長 質問等ないか

（各委員：特になし）

○今井会長 FⅡナイターとミッドナイトでは、FⅡナイターの方がミッドナイトよりも売上が少ないように見えるが、要因についてどのように考えているか。

○小林課長 ミッドナイトについては、競合開催場が同グレードの1場のみであるのが基本なことに対して、FⅡナイターについては、競合場が2場であったり、上位グレードの開催であったりと、各開催における条件が厳しくなることから、このような傾向となったと考えている。

○今井会長 売上については色々と複雑な条件が絡んでいるということ
で了解した。

③令和4年度函館競輪下期開催日程について

(資料「函館市競輪運営協議会提出資料」に基づき小林事業課長から説明)

○今井会長 質問等ないか

(各委員：特になし)

(2)その他

○三浦委員 一般社団法人函館国際観光コンベンション協会の三浦と申します。この度、競輪事業部との共同事業があるので、紹介させていただく。

現状の函館市の観光業においては、新型コロナが5類に移行し、順調に回復している傾向である。インバウンドについては、コロナ以前は函館と台湾を結ぶ航空便は2社で週12便あったが、現在は、1社で週5便となっている。一方で新千歳空港においては、韓国との直行便がLCCを含めて週90便以上となっているが、函館には存在していない。将来的には、函館と韓国の直行便の就航を目指しているところである。

その一助として、10月21日から24日の日程で韓国の旅行会社を函館に招き、ファミトリップといわれる現地視察会を5社から5名をお呼びし実施する予定である。

また、昨今の国内の観光業界ではナイトタイムエコノミーという夜間の体験型観光を推進し、宿泊率を高めて経済効果を高めるという観光政策が全国で取られている。函館においては、函館山からの夜景観光が最も認知度の高い観光アイテムであるが、これ以外の観光アイテムの開発をしていく必要があると考えており、函館競輪場で開催されるナイター競輪をその一つとできないかとも考え、実証実験として今回のファミトリップ内で10月23日か

ら25日の函館ナイター競輪の体験会を組み込み、将来的に韓国の旅行商品の中に取り入れていければと考えている。今後もこのような事業を推進していきたいと考えているので、よろしく願います。

○今井会長 ただいま、ナイター競輪の体験という側面での発言であったが、今年度はナイターの特別競輪であるサマーナイトフェスティバルで売上も上がったと先ほどあったが、今後、それらに絡めて観光コンベンション協会と連携するなどの発想も考えていると思うがいかがか。

○小林課長 特別競輪の誘致についてだが、7月に開催したGIIのサマーナイトフェスティバルでは3日間で約1万5千人の入場を記録し、大きな盛り上がりを見せることができたと考えており、今後の特別競輪等についても函館競輪場はナイター競輪発祥の地であるので、ナイター開催の特別競輪であるサマーナイトフェスティバルを中心に、積極的な誘致に務めていきたいと考えている。また、誘致に係る施策の一つとしても、先ほど三浦委員から話のあったような、インバウンドの積極的な取り込みについても考えていきたい。

○扇谷部長 ここまでは特別競輪に着目した話題であると思うが、小林課長からの説明のとおり、函館競輪場はナイター競輪専用場として夜間の競輪開催を基本としている。ナイター競輪については、三浦委員からのナイトタイムエコノミーとしての観光アイテムへの活用について説明があったが、競輪事業部としても十分に活用できるコンテンツであると考えている。

また、5月8日新型コロナウイルス感染症が5類に移行してからは、来場者が戻りつつあり、さらには、コロナ禍でインターネット投票を基本に増加した若年層を中心とした以前にはない顧客層の入場も見受けられるようになってきた。このような点からも、国内外を問わず夜間の体験メニューとして函館を楽しんでもらえるものとなると考えており、今後はファ

ムトリップのような視察に留まらず、観光商品として実現していくことを目指しながら頑張っていきたいと考えている。

○今井会長 ぜひ、頑張っていたきたいと思う。

他に質問等ないか。

○木田委員 今の、海外の顧客が増える可能性があるという話について、私も諸外国で競馬や競輪、ドッグレースなどの視察で案内を受けた経験があるが、観光する人というのは、決まった時間に連れてこられて、その時間で体験するという流れが主であり、その中で、ドッグレースについては、観光客への配慮かは分からないが、間断なくレースが実施されており、短い時間でより多くのレースが体験でき、観光で訪れた人が楽しめるようになっていた。競輪の仕組みとして、何分間隔でレースをするという決まりがあるのかもしれないが、例えば観光客が入る時には、短い時間でより多くのレースを体験できる機会を創出するため、レース間隔を短くするなどの調整ができればいいのかなと思う。難しいのかもしれないが、レースの間隔が地元のお客様と観光客の方では、感じ方が違うのかなと思う。

○扇谷部長 木田委員からの意見についてであるが、発走時刻を含め競輪の開催運営については、全国的に統一された基準のなかで行われており、レース間隔を極端に短くするような調整については、非常にハードルが高く現実的には不可能である。一方で、J R Aにおいてはレース間隔が一般的には40分から45分であるものに対して、競輪については25分程度の間隔が一般的であり、観光施設での平均滞在時間である1時間の内であれば、2レースから3レースが体験できる設定となっていることから、一定程度の体験回数は保てると考える。また、レースの合間に楽しむことのできるようなサービス、企画についても今後ブラッシュアップし、競輪場に滞在する中でレースを楽しんでいただくことはもちろん、それ以外の部分

についても楽しんでもらえるようにしていけたらいいなと思っている。
いただいたご意見は今後の参考にさせていただきたい。

○今井会長 他に質問等ないか。

(各委員：特になし)

○小林課長 最後になるが、今年度の最終的な売上について、最終開催終了後に書面をもって報告したい。また、次回の会議については、令和6年2月頃を予定している。日程が決まり次第、ご案内申し上げるので、ご出席についてお願いしたい。

= 以上をもって終了 =